

テレビ愛媛

事業の名称

“自分で取材し事実を知る”

SNS社会のメディアリテラシーと高校生が取材し伝える戦後80年

共同で事業を実施した団体

愛媛大学附属高等学校（学校の協力を得て2年生有志23人と共に事業を実施）

事業概要

【目的】

高校生にSNS社会における最近のトラブル事例を紹介し、情報の真偽判断、直接事実を確認する“取材（一次情報）”の大切さを学び、感じてもらいます。その実践ケースとして戦後80年の戦争体験者に直接インタビューで話を聞き、若者世代に訴求するコンテンツを制作し、「自分が取材して確かめること」「理解して伝えること」の重要性と、情報を見極める力を身につけてもらいます。

【参加者】

愛媛大学附属高等学校2年生（希望者23人）

【実施内容】

※2025年度の事業実施を前に、2月から高校と連携の取り組みを開始

①「SNS社会のメディアリテラシー」について講演授業（2月3日）

愛媛大学附属高校1年生全員（約120人）を対象に、テレビ愛媛報道ディレクターが講義を行い、最近のSNS発信情報を巡る社会問題（兵庫県知事選挙や災害時フェイクニュース）の事例を紹介し、SNS情報のメリット・デメリットを指摘。一方でテレビ局のニュース制作現場では、情報の裏づけによる真実性の確保や、多様な意見を明示していることなどマスメディアの役割



を知ってもらった。生徒にはSNS情報のエコーチェンバーやフィルターバブル等の特徴を伝え、日ごろどのように情報判断しているか考えてもらった。

② テレビ愛媛との「戦後80年プロジェクト」への参加者を募集

講演の際にプロジェクトの概要を説明し希望者を募集。新2年生23人から参加希望があり、有志23人で4月からプロジェクトをスタートさせた。

③ テレビ愛媛社内見学（4月2日）

メンバー23人にテレビ愛媛の放送現場を見学してもらった。2つの班に分かれてテレビ愛媛のニュース制作現場を見学し、ニュース取材や原稿の書き方、映像編集から放送への流れを実際に見て学んだ。さらに若手報道記者、アナウンサーから直接話を聞いて、ローカル局の役割、意義、仕事のやりがいなどを感じてもらった。



④ 校内メディア意識アンケート（5月上旬）

高校の全校生徒を対象にメディア意識アンケートを実施（282人が回答）。日ごろどのくらいネット情報に触れているか、どんなメディア情報に接しているかなど、質問項目は高校生たちが考えて調査を実施し、結果について意見を述べ合った。

⑤ 「戦後80年プロジェクト」戦争体験者への取材（6～7月）

23人のメンバーを5つの班に分けて、愛媛県内の戦争体験者から直接話を聞いて動画コンテンツにまとめるプロジェクトをスタート。

【取材対象者】

- ・松浦秀人さん（79）松山市在住、日本被団協代表理事
1945年に広島で母親の胎内で被爆した「胎内被爆者」。原爆被害についての講演活動を続けていて、ノーベル平和賞の授賞式にも参加。
- ・白石功さん（85）松山市在住
松山空港近くで幼少期に戦争を体験し、今も戦争遺跡として残る戦闘機を格納する「掩体壕」について語ってくれた。
- ・中山厚さん（93）松山市在住、松山市平和の語り部
1945年7月の松山空襲について空襲から逃げ延びた自身の体験を語ってくれた。
- ・高須賀玉子さん（94）東温市在住
プロジェクト参加生徒の親族。戦争当時、女学生だった体験や戦争の苦労を初めて親族以外に語ってくれた。松浦さんの講演は23人全員が聞いて2つの班が動画制作を担当、そのほか3班は白石さん、中山さん、高須賀さんに個別にインタビュー取材をして生の戦争体験を聞いた。



<松浦秀人さんの講演>



<高須賀玉子さんへの取材>

⑥ 「戦後80年プロジェクト」動画編集（7月）

テレビ愛媛報道ディレクターのアドバイスを受けながら、それぞれの班ごとに約1時間のインタビュー動画を5分程度の動画コンテンツにまとめる作業に取り組んだ。「インタビューのどの部分を伝えたいか」を抜き出してもらい、効果的な構成、つながりの原稿、スーパーなどを考えた。テレビ愛媛の編集機で作業を行い、ナレーションも高校生自らが読んで5分程度の動画を完成させた。



⑦ 動画発表会（7月31日）

23人のメンバーと関係者が集まり、5班それぞれが制作した動画発表会を開催。それぞれメンバーが感じたことや学校関係者の感想などもいただいた。完成した動画は、テレビ愛媛公式YouTubeで配信し、テレビ愛媛ホームページでも見られるようにしている。



事業の成果

■ 番組放送・ネット配信

- ・ 一連の活動は8月15日にテレビ愛媛の夕方ニュース『EBCライブニュース』で特集放送した。
- ・ 12月29日には特別番組として、『愛媛の戦後80年、次世代へのバトン～高校生が伝えるメディアリテラシー』という15分番組を放送した。
- ・ 生徒たちが作成した戦争体験者の話をまとめた5本の動画は、テレビ愛媛公式YouTubeチャンネルで配信し、多いものは300回以上再生されている。この動画はこのあとも長く戦争体験者の声を後世に伝え続けるコンテンツになる。

■ 新聞掲載

8月15日付産経新聞（大阪版夕刊）に記事が掲載された。

■ 取材対象者の反応

取材対象者にも生徒が制作した動画を見てもらい、感想をいただいた。

中山厚さん「高校生たちが熱心に戦争体験の話聞いてくれて、動画にまとめてくれたのは本当にうれしく思う。私も平和の語り部の活動をしているが、もっと頑張って伝えていかねればいけないと思った」

■ 生徒・学校の反応

2026年2月4日に校内発表会で生徒が制作した動画を短く再編集してオンラインで全校生徒に発表した。

発表した生徒からは、以下のような感想があった。

- ・ テレビ局と一緒に制作できたことは貴重な体験になった。
- ・ 戦争の悲惨さを知った。そして体験した人の話を伝えることは大切だと感じた。
- ・ 動画をまとめることの難しさを体験できてよかった。
- ・ うその情報に惑わされないようにしたい。

学校側からは「こうした活動を今後も実施していきたい」と今後の連携の可能性も示していただいた。

■ 活動の放送・配信

<放送>

- ・ 8月15日「EBCライブニュース」 高校生が伝える戦後80年特集（約10分）
- ・ 12月29日「愛媛の戦後80年、次世代へのバトン～ 高校生が伝えるメディアリテラシー」（15分特別番組）

<配信>

- ・ テレビ愛媛公式YouTubeにて「愛媛大学附属高校“戦後80年プロジェクト”」生徒が制作した5本のYouTube動画を配信。
- ・ テレビ愛媛ホームページ特設ページ「えひめ戦後80年～未来に伝える」

以 上